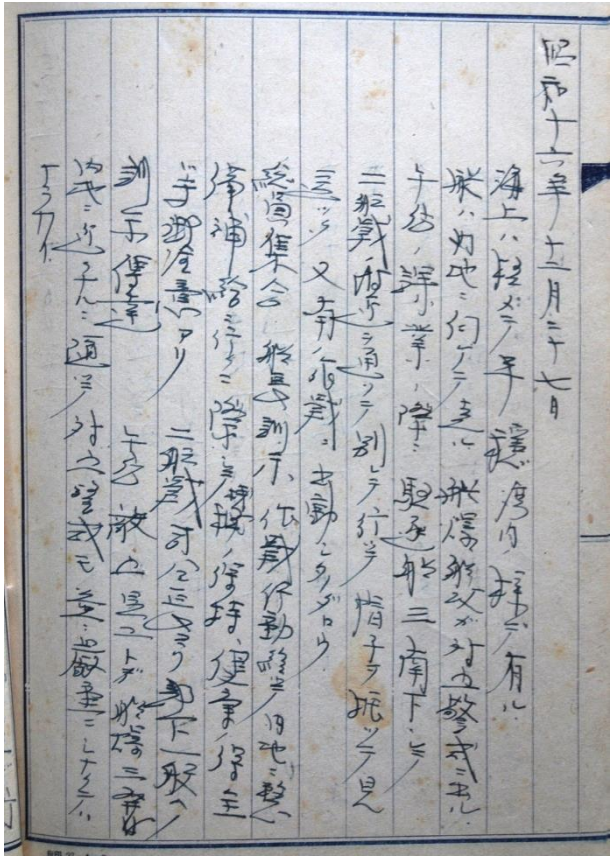




昭和十六年十二月二十七日

海上ハ極メテ平穩、湾内ノ様デ有ル。
艦ハ内地ニ向ケテ走ル。艦爆艦攻ガ対潜警戒ニ出ル。
午后ノ課業ノ際ニ駆逐艦三、南下シテ
二航戦ノ附近ヲ通ツテ別レテ行ツタ。帽子ヲ振ツテ見
送ツタ。又南ノ作戦ニ出動シタノダロウ。
総員集合。艦長訓示。作戦行動終ツテ内地ニ整
備補給ニ行クニ際シテ、機秘(密?)ノ保持、健康ノ保全
等御注意アリ。二航戦司令長ヨリ部下一般ヘノ
訓示傳達。 午后、敵潜水艦見ユトデ艦爆三発艦。
内地ニ近クナルニ随ツテ対潜警戒モ益々嚴重ニシナクテハ
ナラナイ。

昭和16年12月27日

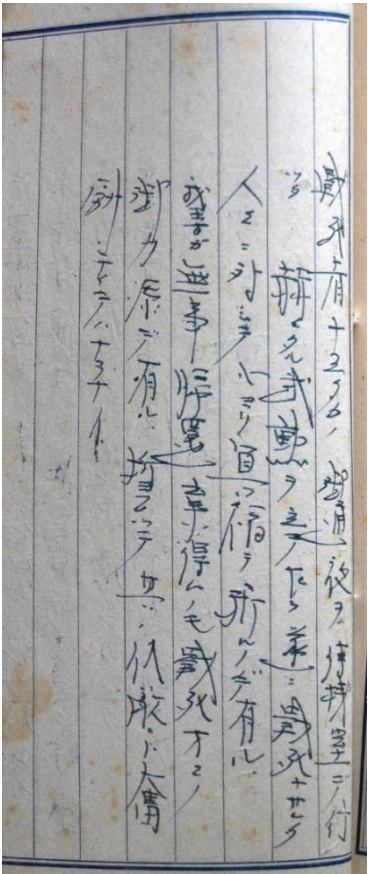
対潜警戒

	階級	氏名	出身期	被害	効果
一 直	三飛曹	川島甲治	操50	無	敵ヲ見ズ
	一飛曹	田中敬介	甲2		
	二飛曹	小川政次	乙8		
	一飛	茅原義博	操48	無	
	三飛曹	安藤百平	偵49		
	二飛曹	荒井辰雄※			
二 直	一飛曹	佐藤寿雄	操26	無	
	飛曹長	大迫加一	偵29		
	三飛曹	荒井辰雄	偵43		
	一飛	沼尻三二	操55	無	
	二飛曹	吉岡政光	偵43		
	二飛曹	若宮秀夫	甲4		
三 直	一飛曹	大多和達也	乙5	無	
	一飛曹	藤波貫二	偵27		
	一飛	永井福太郎	偵51		
	二飛曹	二瓶務	甲4	無	
	二飛曹	宗形龍恵	偵43		
	一飛	小野安衛	偵53		
四 直	二飛曹	根食貞憲	乙8	無	
	一飛曹	杉山弘興	甲1		
	二飛曹	丸山忠雄	甲3		
	二飛曹	森拾三	操38	無	
	一飛曹	加藤豊則	甲2		
	二飛曹	早川潤一	甲3		

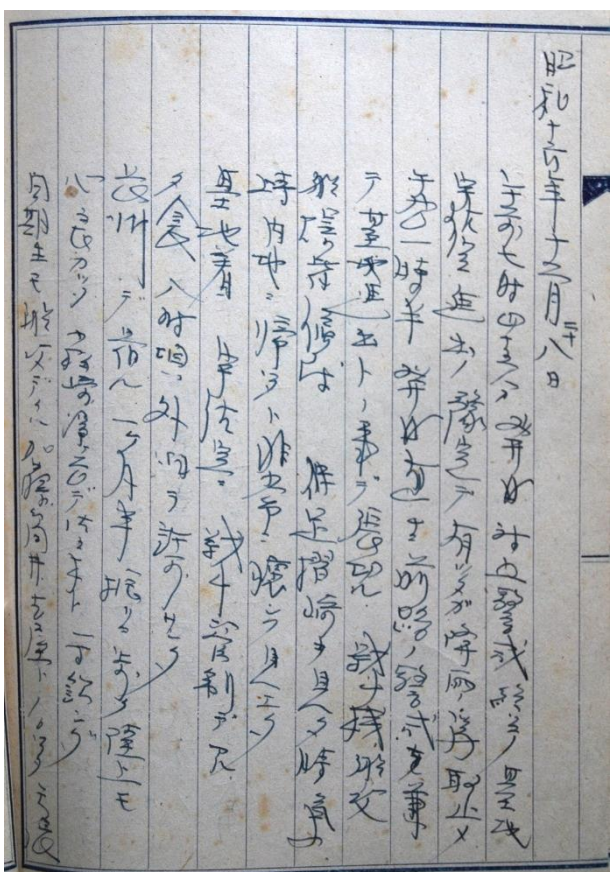
※戦闘詳報ノ搭乗員 荒井ハ何レカ誤リナラン

敵潜搜索攻撃

	階級	氏名	出身期	被害	効果
艦 爆	一飛曹	中川紀雄	乙7	無	敵ヲ見ズ
	大尉	山下途二	兵65		
	二飛曹	須藤市郎	乙8	無	
	二飛曹	高橋秀吉	甲4		
	一飛曹	小瀬本国雄	操53	無	
	二飛曹	高野義雄	乙8		



戦死者十五名ノ御通夜ヲ待機室デ行
ツタ。 赫々タル武勲ヲ立テ乍ラ遂ニ戦死ナサレタ
人々ニ対シテ心ヨリ冥福ヲ祈ルノデ有ル。
我等ガ無事帰還出来得ルノモ戦死方々ノ
御力添デ有ル。誓ツテ其ノ仇敵ト奮
励シナクテハナラナイ



昭和十六年十二月二十八日

午前七時四十五分発艦、対潜警戒終ッテ基地
 宇佐空進出ノ豫定デ有ッタガ、降雨ノ為取止メ。
 午后一時半発艦、直チニ前路ノ警戒ヲ兼
 テ基地進出トノ事デ張切ル。戦斗機、艦攻
 艦爆皆帰隊。足摺崎ヲ見タ時、氣
 持内地ニ帰ッタト非常ニ懷シク見エタ。
 基地着、宇佐空ニ戦斗管制デアル。
 夕食。八時頃、外泊ヲ許可サレタ。
 長州デ宿ル。一ヶ月半振リニ歩ク陸上モ
 心良カッタ。小松崎、浮ヶ谷デ佐々木ト一寸飲ンダ。
 同期生モ艦攻デイル加藤、筒井、吉屋ト合ッタ。矢張

小松崎昭夫1飛(操)と佐々木隆寿3飛曹(偵)は蒼龍での島田のベア。
 浮ヶ谷弘1飛(偵52)は蒼龍の同僚。電信員。
 昭和17年10月17日 隼鷹 ソロモンにて戦死



加藤哲夫3飛曹(乙9期) 艦攻操縦
 昭和18年11月11日 瑞鳳 ソロモンにて戦死



筒井富雄3飛曹(乙9期) 艦攻操縦
 昭和19年6月19日 653空 マリアナ沖海戦にて戦死



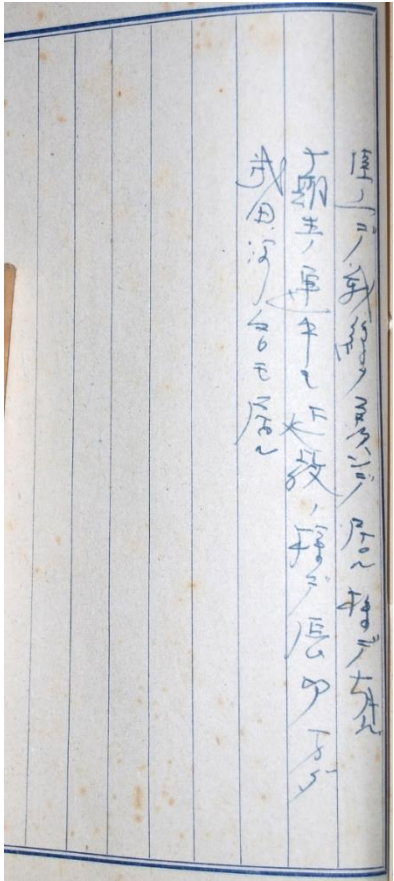
吉屋清3飛曹(乙9期) 艦攻操縦
 昭和18年12月17日 551空 蘭印方面にて戦死

昭和16年12月28日

対潜警戒

	階級	氏名	出身期	被害	効果
一 直	大尉	池田正偉	兵61	無	敵ヲ見ズ
	飛曹長	寺井栄	乙2		
	一飛曹	山田隆	甲1	無	
	一飛曹	藤田多吉	偵33		
	一飛曹	中川紀雄	乙7	無	
	大尉	山下途二	兵65		
	二飛曹	須藤市郎	乙8	無	
	一飛曹	石田重吉	偵35		
二 直	大尉	中島巽	兵65	無	
	一飛曹	石井利一	乙7		
	一飛	西田孝雄	偵47		
	一飛曹	佐藤寿雄	操26	無	
	飛曹長	大迫加一	偵29		
	三飛曹	荒井辰雄	偵43		
三 直	大尉	小井手護之	兵65	無	
	一飛曹	山本博	偵30		
	一飛曹	土屋庚道	乙7	無	
	一飛曹	寺元英己	甲1		

陸上デ戦線ヲ羨ンデ居ル様デ有ル。
十期生ノ連中モ延教ノ様デ張切方ダ。
武田、河合モ居ル。



河合敏一飛（乙9期）中攻操縦
昭和18年9月20日 751空 ソロモンにて戦死



武田清3飛曹（乙9期）艦攻操縦
昭和19年10月24日 653空 比島東方沖にて戦死



当時宇佐空には乙10期生（飛練16期）もいて実用機訓練（延長教育）を受けていた。
卒業が遅れた乙9期の武田清と河合敏も飛練16期生として宇佐空で訓練に励んでいた。

昭和十六年十二月二十九日 宇佐空
昨日午後八時頃外出許可。六時二時帰隊シタ。
飛行機ハ野外繫止デ有ル。
テテ、整備。
午後三時頃外出シタ。
小松崎、浮ヶ谷、佐々木ト飲ンダ。
三好館ニ宿ル。

昭和十六年十二月二十九日 宇佐空

昨日午後八時頃外出許可。六時二時帰隊シタ。

飛行機ハ野外繫止デ有ル。

午前一寸整備。

午後三時頃外出シタ。

小松崎、浮ヶ谷、佐々木ト飲ンダ。

三好館ニ宿ル。

昭和十六年十二月三十日 宇佐空
七時半帰隊。
午前整備。
午後八時海軍葬ニ二機発。
午後五時外出。
加藤、阿部ト佐々木デ同期會ト飲ンダ。

昭和十六年十二月三十日 宇佐空

七時半帰隊。

午前整備。

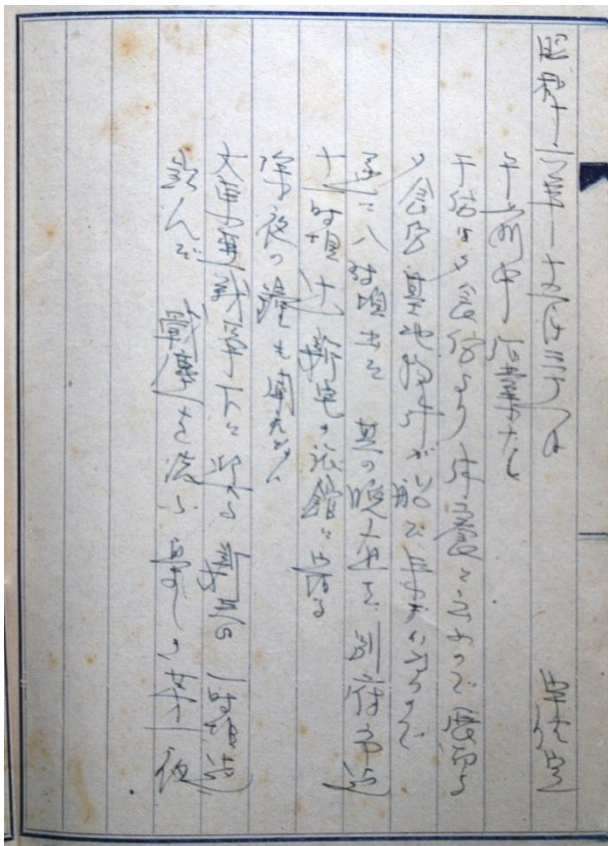
午後八時海軍葬ニ二機発。

午後五時外出。

加藤、阿部ト佐々木デ同期會ト飲ンダ。



阿部芳包3飛曹(乙9期)艦攻操縦→陸爆操縦
昭和20年4月14日 攻撃501飛行隊 沖縄にて戦死



昭和十六年十二月三十一日 宇佐空

午前中作業ナシ。

午後ハ夕食后より休養と云ふので張切る。

夕食后、基地物件が船で来ていないので

遂に八時頃出た。其の晩、道を別府市迄

十一時頃、辻新宅の旅館に宿る。

除夜の鐘も聞えない。

大東亜戦争下に迎へる新春。一時頃迄

飲んだ。戦塵を洗ふ楽しき第一夜。

(この日だけ送り仮名がひらがな表記)

※ここで終わり

本日記の公開にあたり、まずは画像使用の許可いただいた予科練生ご遺族の皆様には感謝いたします。

日記の判読にあたっては『真珠湾攻撃隊隊員列伝』（大日本絵画刊）の共著がある日本海軍研究家の吉良敦氏・吉野泰貴氏のお二人にご助力を賜りました。

また、度重なる資料の調査に際して、日記の所有者である島田家の方々にも多大なご協力をいただきました。

ここにあらためてお礼申し上げます。